

「旭川文学資料館」の開館とこれからの課題

旭川文学資料友の会

事務局長 菅野 浩

●旭川文学資料館開館

平成二十一年五月十七日、長年の念願であった旭川文学資料館が、常磐公園内の旭川市常磐館（旧青少年科学館）中二階展示室に開設されました。

これまで九年間にわたり寄贈を受けた文学資料約四〇、〇〇〇点の中から、旭川ゆかりの文学資料約一、五〇〇点と、道外の文学資料約四、五〇〇点が一七四㎡にぎっしりと収容展示されています。展示に使用している書棚やガラスケースなども全て二四〇を超える個人や企業、商店などからの好意による寄贈品です。



展示説明パネルや資料、写真などのキャプション、年表作成なども全て旭川文学資料友の会会員のボランティアによる手作りで、すべてが旭川市民の好意と熱意によって開館した文学資料館ということができます。開館前の二、三ヶ月は文学資料友の会会員十数名が殆ど連日通い詰めで作業をしてようやく開館に漕着けました。

旭川文学資料館は旭川市が設立し、ボランティア団体・旭川文学資料友の会が運営を担当して、逸散しがちな文学資料を収集、保存、展示して、旭川ゆかりの文学資料を広く市民に紹介するとともに、市民の文学活動を支援することにより旭川市の文化の振興を図ることを目的としています。

開館は、火曜日から土曜日までの午前十時から午後四時まで（日・月・祝祭日は休館）、開館時はボランティア会員が一人常駐しています。入館料は無料です。



● 主な展示は次のとおりです。

○ 小熊秀雄く生前、東京で使用していた机と書類箱（旭川市博物館所蔵）、直筆絵入り色紙、詩友・小池栄寿に宛てた絵入りハガキと賀状。ツネ子夫人と息子焰ちやんの写真等

○ 今野大力く直筆の手紙、直筆サイン入り本、雑誌等

○ 板東三百資料（室蘭港の文学館より寄贈受け）く直筆生原稿、著書、雑誌、写真、手書き療養記録等

○ 小熊秀雄賞歴代受賞者パネル、受賞詩集、受賞者直筆原稿、所属詩誌等

○ 知里幸恵く小学校時代の写真（寄託）、著書、金田一京助が佐々木長左衛門（豊栄小学校校長）を訪ねたときの直筆芳名帳（寄託）等

○ 旭川の評論・小説、詩、短歌、俳句、川柳、児童文学の各ジャンルに分けて、旭川発行の稀覯本・雑誌（機関紙「万国太陽旗」、詩誌「国詩評林」、俳誌「木の芽」、歌誌「あさひね」、など）、色紙、短冊、写真、直筆生原稿（佐藤喜一、木野工、鈴木政輝、下村保太郎、ほか）等

○ 旭川市内学校文芸誌、サークル誌等

● 「旭川文学資料友の会」について

「旭川文学資料友の会」は、旭川ゆかりの貴重な資料の逸散を危惧する有志により平成十三年四月「旭川文学資

料研究会」として設立されました。

設立当初の会員数は一八七名、会長相川正志、事務局長東延江。

旭川に関わる文学関係資料の調査収集とともに「旭川文学資料館」の設立を目指して、旭川教育委員会の支援の下、旭川市立啓明小学校の空き教室を借りて活動を始めました。本や雑誌などの資料はもちろん、机や椅子、書棚なども全て市民の皆様からの寄贈を受けて、約二〇名のボランティアにより、資料の調査収集整理（カード登録）作業を、毎週水曜日を中心に実施しました。

平成十七年、旧青少年科学館地階に移転「旭川文学資料調査室」の設立にともない「旭川文学資料友の会」に改称し、これまでに整理登録済資料は三五、〇〇〇点に達し、会員数は高齢による死去・退会などもあり現在一七五名で、これからの活動を充実していくためには、会員の増加、特に活動できる若いメンバーの参加が求められています。

これまでに寄贈された資料をもとに特別企画展を十二回実施してきました。

第1回 旭川文学資料展

(二〇〇一年七月)

第2回 詩人 相川正義の世界

(二〇〇二年九月)

第3回 旭川の俳句

(二〇〇三年二月)

第4回 旭川詩人クラブのあゆみ

(二〇〇三年十一月)

第5回 没後十年 安部公房展

(二〇〇三年十一月)

第6回 小熊秀雄賞受賞の詩人たち

(二〇〇四年五月)

第7回 旭川の短歌

(二〇〇四年五月)

第8回 詩と版画 下村保太郎の世界

(二〇〇五年五月・六月)

第9回 屯田作家 板東三百展



(二〇〇六年六・七月)

第10回 今野大力とその時代展

(二〇〇七年九・十月)

第11回 宮之内一平の仕事

(二〇〇八年九・十月)

第12回 旭川ゆかりの歌人斎藤瀏・斎藤史の世界

(二〇〇九年九・十月)

●これからの課題

旭川文学資料館は九年間の準備期間を経てようやく開館することができましたが、これで目的を達成したのではなく、これが第一歩でありこれからが本当の活動を必要としています。開館はそのスタートなのです。文学資料の調査収集・整理保存は文学資料館が存続する限り続く作業ですし、現在展示できている資料は整理登録済資料の五分の程度に過ぎません。まだまだ展示スペースも不足ですし、展示パネルも展示ケースも必要です。

創作・評論、詩、短歌、



俳句、川柳、児童文学など各ジャンルべつに、旭川におけるこれまでの活動の歴史を振り返る展示も必要ですし、小熊秀雄や今野大力などが活躍した時代に焦点を当てた展示や、第七師団にゆかりを持つ文学者たちをテーマとする展示なども考えることができると思います。

特別企画展も開催場所がないため、井上靖記念館にお願いして、共同開催させていただいている現状です。文学資料館が独自に企画展や特別展を開催できるスペースと設備がぜひとも必要ですし、企画展や特別展に併せての講演会や朗読会などのスペースも必要です。

旭川市民の文学活動の拠点として、文学情報の発信の場としても、更なる充実と活動の強化が求められていると思われまます。

現在活動している各ジャンルの結社や同人・サークルなどが、それぞれの活動の現状や歴史を展示するコーナーを持つことにより、旭川における文学活動の現状や文学情報の発信の場とすることができるとし、現在ある講堂や会議室などを利用しやすい体制にすることによって(手続き、時間、曜日など)結社や同人・サークルなど文学者の活動の拠点としていくこともできると思われます。

旭川ゆかりの文学資料を収集・展示・保存する

旭川文学資料館

〔所在〕〒070-0044 旭川市常磐公園内、旭川市常磐館（中2階）

〔開館日〕火～土曜日（〔休館日〕日・月・祝祭日）

〔開館時間〕10:00～16:00

〔入館無料〕

旭川文学資料館は旭川市が管理し、ボランティア団体・旭川文学資料友の会が運営しています。

散逸しがちな文学資料を収集、展示、保存し、旭川ゆかりの文学資料を広く市民へ紹介するとともに市民の文学活動を支援することで本市の文学の振興を図ることを目的としております。興味のある方は是非お越し下さい。申し出てくだされば所蔵資料の閲覧も可能です。（貸し出し、複写は不可）

展示資料の一部を紹介

- ・ 小熊秀雄が東京で使用していた机（旭川市博物館所蔵）
 - ・ 小熊秀雄の直筆絵入り色紙
 - ・ 小熊秀雄が詩友・小池栄寿に宛てた絵入りハガキ、賀状
 - ・ 小熊秀雄賞歴代受賞者の生原稿、詩集、所属詩誌等
 - ・ 今野大力直筆の手紙
 - ・ 今野大力の直筆サイン入り本、雑誌
 - ・ 板東三百資料（室蘭港の文学館より寄贈）。生原稿、写真、著書、雑誌等
 - ・ 知里幸恵の小学校時代の写真（寄託）
 - ・ 金田一京助が佐々木長左衛門（豊栄小学校）を訪ねたときの直筆芳名帖（寄託）
 - ・ 安部公房「手について」、安部公房編集の「現代芸術」
 - ・ 各ジャンルの旭川発行の稀覯本、雑誌（戦前・戦後）
 - 機関誌「万国太陽旗」、詩誌「国詩評林」、俳誌「木の芽」、歌誌「あさひね」ほか
 - ・ 生原稿（佐藤喜一、木野工、鈴木政輝、下村保太郎、ほか）
 - ・ 各ジャンルの色紙、短冊、写真
 - ・ 学校文芸誌、サークル誌など
- 計、約6000点を展示しています。

また、旭川に関係のある文学資料等がございましたらご一報ください。

是非お越し下さい。
お待ちしております。

〔連絡先〕
旭川市常磐館内、文学資料調査事務室
TEL：0166-22-3310（内線228）
FAX：0166-22-3334